【別添２】（様式例２）

令和４年度　自己評価・学校関係者評価　報告書

岐阜県立岐阜各務野高等学校　学校番号　１３

Ⅰ　自己評価

１　学校教育目標	強くたくましい心身や豊かな人間性と社会性を育むとともに、社会の要請に対応した高い専門性を有する人材の育成を目指し、一人一人が自己実現を果たすことのできる基礎的な能力と態度の育成に努める。 １　社会の変化に対応し、地域産業の発展を担う人材の育成に努める。 ２　豊かな人間性と高い倫理観を育み、積極的に社会に貢献できる人格の形成に努める。 ３　学習や部活動を通して、生涯にわたり健康で明るく豊かな生活が送れるよう心身の健全な発達に努める。		
２　スクール・ポリシー	『育てたい生徒像グラデュエーション・ポリシー（GP	『生徒をどう育てるか』カリキュラム・ポリシー（ＣＰ）	『どんな生徒を待っているか』アドミッション・ポリシー（ＡＰ）
	・ビジネスマナーを身に付け、商業の各分野について高度な知識と技術を身に付けるとともに、想像力豊かでビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取組むことができる生徒（ビジネス科） ・ディジタルクリエイターとして、Society5.0で実現する新たな社会において情報を活用し、情報に対する新たな価値を創造することができる生徒（情報科） ・福祉に関連する職業に従事する上で必要な資質・能力を身に付け、より良い福祉社会をめざすため主体的かつ協働的に取組むことができる生徒（福祉科）	・「礼節と礼儀を大切にした商業人教育」と「商業の専門性を深める探究的な学び」を両輪として、経済社会で活躍できるために商業の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学びの推進（ビジネス科） ・情報産業に関する事象について、主体的に課題を発見し、ＩＣＴ機器を活用しながら科学的で論理的な方法で創造的に解決していくための探究的な学びの推進（情報科） ・実践的・体験的な学習活動を行うことを通して学ぶ意欲を高め、福祉に関する課題を発見し、職業人として求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する学びの推進（福祉科）	・商業の諸活動に興味・関心があり、資格取得に意欲的に取組む姿勢をもつとともに、経済社会に積極的に参画しリードできる人材になりたいと考えている生徒（ビジネス科） ・情報科の学習（プログラミング・映像制作・イラスト制作・アプリ開発・Webデザイン・ネット配信等）に深い興味・関心があり、その知識や技術の習得に努力を惜しまない生徒（情報科） ・福祉に関して興味と関心をもち、将来の職業として福祉に関わる職業を希望している生徒（福祉科） ・部活動や生徒会活動、ボランティア活動等に主体的に活動し、自己の成長や仲間とのつながりを大切にしようとする生徒

【教務部】

３　評価する領域・分野	◇教務部（教育課程・学習指導・情報発信）
４　現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	生徒 ・「授業の教え方や説明が分かりやすい先生が多い。」という項目では、81.6％となり昨年度より10.1ポイント上がった。 ・「本校の先生は、働き方改革に努めている。」という項目では、69.8％となり昨年度より12.3ポイント上がった。 ・「本校では、テストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行っている。」という項目では、78.9％となり昨年度より17.9ポイント上がった。 ・「本校では、ICTを活用した学習活動や協働的な学びの機会、オンライン等での学習支援などがあり、それが学習の理解につながっている。」という項目では、83.8％となり昨年度より15.1ポイント上がった。 ・「熱心に学習指導・生徒指導などに取り組んでいる先生が多い。」という項目では、83.1％となり昨年度より4.9ポイント下がった。 ・「本校の先生は、授業や家庭学習への指導・支援等を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている。」という項目では、74.7％となり昨年度より3.1ポイント下がった。 保護者等 ・「本校の先生は、働き方改革に努めている。」という項目では、60.8％となり昨年度より11.3ポイント上がった。 ・「学校を訪問したり、電話したりしたときの教職員の対応（挨拶や話し方）が適切である。」という項目では、65.6％となり昨年度より19ポイント下がった。
５　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇授業を大切にし、１時間の授業目標とまとめを明確にすると同時に生徒一人一人が授業で充実感をもてるような指導方法の工夫、分かる授業、活気溢れる授業、ICTを積極的に活用した授業に努める。

6　重点目標を達成するための校内における組織体制	・職員会議、職員研修会、教科会議 等

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
（１）研究授業とその研究会の実施 （２）日々の授業を振り返り、分かる授業に向けて研鑽を重ねる。	（１）職員による情報共有、授業改善 （２）成績不良者の減少

9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
・グループ別授業研究	①授業改善に向けて取り組むことができたか。	A (B) C D
・授業や校務等へのICT導入と活用	②ICT活用は適切であったか。	(A) B C D

12 成果・課題		総　合　評　価
	○ICT機器の導入に伴って、授業での効果的な活用がさらに推進され、「わかりやすい授業」につなげることができた。 ○すぐメールを有効活用し保護者への連絡を密にし、連携を図ることができた。 ▲観点別評価の実施に向けて各教科においてさらに検討・研究が必要である。	A (B) C D

13　来年度に向けての改善方策案

・観点別評価の実施に伴い、教師が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるよう取り組む。
・教職員のICT機器の積極的な利用が定着して授業展開に変化も見られている。その取組みから、生徒に何をどのように学ばせ、どのような力を身に付けさせるのかを目標設定し、授業改善に努める。
・考査前に家庭学習時間調査を実施する。

Ⅱ　学校関係者評価

実施年月日：令和５年２月３日

【意見・要望・評価等】

・違う分野の学科が３つあることは、本校の強みである。今後は、その強みを生かして他の学科との交流をする取組を充実させるとよい。
・今回の課題研究の発表を参観して、一人一人の生徒のICT機器の活用能力の高さが見られた。

【生徒支援部】

3　評価する領域・分野	◇生徒支援（教育相談）
4　現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	**（A:よくあてはまる　B:ややあてはまる）回答の割合**　**【生徒%・保護者%】** ・モラルやマナー、社会規範の指導に努めている　84.5・73.1 ・いじめや差別を許さず、適切に対応している　81.6・74.9 ・交通事故や痴漢防止等の安全指導を行っている　88.5・70.6 ・ボランティア活動の機会を提供している　73.4・53.9 ・生徒の基本的生活習慣の確立に努めている　82.3・67.4 ・悩みや相談に適切に対応している　75.4・56.8
5　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇安全で安心できる学校環境を形成する ◇基本的生活習慣の確立を図る ◇教育相談の充実を図る
6　重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒支援会議を定期的に実施し、情報共有および具体的指導、支援を継続して行う ・学年、分掌、部活動等と連携を図り、組織的に必要な支援をする ・SCやSSWとの密な連携に努め、多角的な視点で対応する

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
（1）生徒支援会議の充実 （2）教育相談体制の強化 （3）基本的生活習慣の定着（遅刻者数の減少） （4）身だしなみ、制服の着こなし指導の充実 （5）生徒主体の交通安全啓発活動、挨拶運動の充実	（1）年間６回程度実施 （2）教育相談に関する職員研修を実施 （3）遅刻者数の経年変化から実態を把握 （4）定期的な身だしなみ指導と日常指導の徹底 （5）MSLを中心とした活動により他の模範となる活動の推進

9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
・生徒支援会議を年間で６回実施し、情報共有ならびに具体的支援方針などを話し合うことができた。 ・SCによる「教育相談研修」を実施した。 ・「いじめに関する職員研修」を実施した。 ・定期的に身だしなみ指導を実施し、日常から生徒の着こなしに関わる意識を高める声掛けを実施した。	①生徒の情報が共有され、迅速に対応することができたか ②研修から得た知識や考え方を現場で活かすことができたか ③生徒自身が自他ともに認める身だしなみ、制服の着こなしができたか	(A) B C D (A) B C D A B (C) D

12 成果・課題		総　合　評　価
	○昨年度に引き続き、コロナ禍での生活による心身の不調や不安を感じている生徒が多い中、生徒ひとりひとりに寄り添う担任、学年団等の迅速な情報共有や支援によりそれらの不安感を軽減できた生徒がたくさんいると感じている。 ○定期的な「心のアンケート」ならびに「いじめに関するアンケート」（すぐメールで配信）を活用し、生徒の気持ちや実態、状況を把握でき、迅速に対応することができた。 ▲「新型コロナウィルス感染予防のため」の欠席者（出席停止）が増加した。同じく、体調不良等による遅刻者も増加した。 ▲自主、自律を根付かせる制服の着こなしについて、継続した声掛けをする必要がある。	A (B) C D

13　来年度に向けての改善方策案

・更なる生徒理解に努め、個別に支援・対応すべき事柄と集団として規則遵守を徹底する事柄を明確にして組織内共有を図り、必要に応じて組織内協議のうえ適切に対応する。
・保護者との密な連携を図り、信頼関係を構築したうえで家庭と学校が共通理解のもと、生徒の成長につながる指導を実践する。
・学校ブランド、学校イメージを向上させる取り組みを実施する。（地域清掃活動、交通安全啓発活動等）
・生徒の言葉に耳を傾け、ともに解決を図ろうとする共感的姿勢（傾聴）を実践する。

Ⅱ　学校関係者評価

実施年月日：令和５年２月３日

【意見・要望・評価等】

・来年度に向けて生徒支援部として「組織」「密な連携」「信頼関係」「共通理解」「傾聴」を大切にして、開発的な生徒支援を推進していくとよい。
・「心のアンケート」や「いじめに関するアンケート」をメールで回答しなかった生徒に対して、担任の先生が個別に聞き取りを行っていることがよい。きめ細かな配慮は継続していくようにする。
・「ともに解決を図ろうとする共感的姿勢（傾聴）」には共感でき、どの先生もこのような姿勢で生徒に対応することが大切である。

【進路支援部】

3　評価する領域・分野	◇　進路指導
4　現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・インターンシップ・施設実習の就業に関わる体験的な学習を通して望ましい勤労観・職業観の育成を図ることを狙ったが、感染症対策で体験的な学習が限られた。 ・進路実現のための基礎学力養成や、学習習慣の確立に課題がある。
5　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ICTを活用した基礎学力強化と、面接指導、企業訪問等の積極的実施により、すべての生徒の主体的な進路選択・実現を図る。
6　重点目標を達成するための校内における組織体制	・進路支援部と学年・教科との連携

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
（1）ICTを活用した課題配信と、自主学習習慣の確立を目指した利活用 （2）外部団体と連携した企業訪問等の実施	（1）配信動画の視聴率と、自主的課題への取組 （2）事後アンケート・自己評価結果の満足度等

9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
・ICTを活用した学び直し スタディサプリを導入し、週末に個に応じた学び直し動画の配信を実施。自主的な課題にも取り組める環境を整えた。 ・企業見学/インターンシップ 各務原市商工振興課連携した企業見学(6月3年就職希望者)、岐阜県産業人材課と連携した企業見学(12月1･2年希望者)、インターンシップの実施(54社:2月2年ﾋﾞｼﾞﾈｽ･情報科) ・進路ガイダンス(大学･企業による体験･説明会) 進学･就職別ガイダンス(5月3年､6月2年)､分野別体験講座(12月1年)､学校･企業説明(12月1･2年生徒･保護者)	①動画視聴･課題取組状況(1/9現在) 340講座受講や80時間視聴の生徒がいる一方で確認完了0講座の生徒25名 ②事後アンケート 6月企業見学参加者62名全員が「役に立った」と回答。一方で、希望者を募る企業見学では定員を満たさない。 ③ワークシート取組状況 12月説明会で保護者と複数ﾌﾞｰｽを訪れ記録を残した生徒と未取組の生徒有	A　B　(C)　D A　(B)　C　D A　B　(C)　D

12 成果・課題	○進路選択へ向けた取組や行事、課題となる基礎学力を定着させる手段を充実させることができた。企業見学や学校･企業説明会等参加者の評価は高い。 ○国公立大学への合格者2名。進路希望調査結果では、総合型選抜等の利用を考える生徒の増加など､「入れる進学先」から「入りたい進学先」に意識の変容がみられる。 ▲基礎学力不足で目標とする進路を実現できなかった生徒もいる。 ▲進路決定の時期が遅く努力が伴わない。生徒の主体性に課題があり、支援が必要。	総　合　評　価 A　B　(C)　D

13　来年度に向けての改善方策案

学年や学科にとらわれず、学校としてキャリア教育の充実を図れるよう、進路支援部主催の研修会等を企画・運営する。取組のつながりや教員の意識変容を図り、組織的に生徒の主体性を育成する。

13　来年度に向けての改善方策案

学年や学科にとらわれず、学校としてキャリア教育の充実を図れるよう、進路支援部主催の研修会等を企画・運営する。取組のつながりや教員の意識変容を図り、組織的に生徒の主体性を育成する。

Ⅱ　学校関係者評価

実施年月日：令和５年２月３日

【意見・要望・評価等】

・「入れる進学先」から「入りたい進学先」に生徒の意識が変わる指導を大切にする。
・インターンシップや企業見学など、体験や実際に触れる機会を設けることを続けていくとよい。
・「努力はすぐに結果につながらなくても、次につながる」という前向きな生き方や姿勢を身に付けるために、あきらめない心や折れない心について全教育活動を通じて育てていくとよい。
・スタディサプリについて、動画視聴や課題の取組状況を評価の視点とすることは難しいのではないか。評価の基準や評価の方法を変えるなど見直す必要がある。
・将来は地元に戻って活躍したいと願う人材育成をめざすとよい。そのためにも、地域の様々な人を知る機会を設けるようにする。

【ビジネス科】

3　評価する領域・分野	◇ビジネス科（学習指導・地域連携）
4　現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・卒業時のアンケートによると、本校に入学して良かったと思う生徒93.0%であった。その理由として「専門的な知識や技術が身に付けられた」「専門教科に関する資格が取得できた」の回答が多い。生徒は資格取得を通じて学習活動を充実させることができた。
5　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇社会で信頼され実りある人生を送るために、商道徳を大切にした心を養い、ビジネスマナーを身に付けるとともに、コミュニケーションを円滑に図れる人材を育成する。商業科目の基礎基本を定着させることで商業教育の土台をつくり、より高度な専門知識を習得できる授業を展開する。 ◇ふるさとを愛し地域に貢献できる人材を育成するために、地域や地元企業と連携した教育活動を行う。地域が抱える問題を考察し、解決するための手段を考える力を育成する。
6　重点目標を達成するための校内における組織体制	・ビジネス科の活動を充実させるために、ビジネス科会議を開き学科運営について協議を行う。 ・ビジネス科の基本方針を実現させるためにフィールド長会議を開きフィールド独自の取組み及び学科運営について協議を行う。

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
（1）小テストや成果物の提出状況で生徒の理解度を確認し、学習状況を把握した上で授業を展開する。また、学習した知識や技術を用いる場面を設ける。 （2）課題研究の授業において、地域に貢献できる活動をフィールドの特性や専門性を生かして行う。	（1）授業アンケートによる自己評価、検定取得状況、知識・技術の定着を図る指標として検定試験を受検し、その合格率をもって判断する。 （2）課題研究発表会や３科合同発表会において、実践してきた活動を発表し、その発表内容の評価をもって判断する。

9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
＜学習指導・資格取得＞ ・少人数指導やTTを活用した授業を展開した。さらに放課後等に個別に補習を行い、生徒の理解度を高めることに努めた。	①授業アンケートによる自己評価、検定取得状況	A (B) C　D
＜課題研究　地域連携活動＞ ・フィールドの専門性を生かし、地域と連携した実習を行い、活動内容を発表した。	②課題研究発表会・３科合同発表会における評価	A (B) C　D
＜ICT機器の活用＞ ・普段の授業においてディジタル教材を活用した学習指導を行い、資格取得につながるようにした。	③ICT機器の活用状況	A (B) C　D

12 成果・課題	総　合　評　価
○教材のアプローチの仕方や動画、視覚的な教材の工夫などICT機器の活用やPowerPointでスライドを作成することなどが学習内容をより発展し、学習の充実につながっている。 ○３年連続で国立大学や公立短期大学の合格者を出すことができた。 ○各種プロジェクトに参加した結果、高度な資格を取得することができた。 ▲保護者や中学生に本校のことをより深く知ってもらうために、学校として何ができるか、今後さらに検討していきたい。 ▲変化する生徒・家庭に対し学校も柔軟に対応が求められる。今まで以上に生徒や保護者の教育ニーズの把握に努めるとともに、学校全体で対応することが必要である。 ▲基礎学力の向上と早期からの進路の意識付けが課題である。	A (B) C　D

13　来年度に向けての改善方策案

・思考力・判断力・表現力の育成、ICTを活用した授業についてのノウハウを学校全体で共有できるような環境づくりに努める。
・授業評価にも引き続き全職員で取組み、授業改善・授業規律の強化により学習意欲を高める。
・各分掌、学科の連携を一層強化し、地域や地元の中学校などへ本校の魅力を伝える工夫をする。
・保護者と連携を図り信頼関係を構築する。そのうえで家庭と学校で生徒の指導にあたる。
・生徒の指導にあたっては、生徒情報を共有し組織で対応していく。専門機関等と連携する。
・コロナ禍における企業訪問や面接指導の方法等について検討し、生徒の進路実現に繋げる。

・国公立大学や難関私大に一般公募制推薦で挑戦できる生徒を増やす。生徒自身の可能性を広げられるように、進路指導部や各学科・各学年と協力し、低学年からの意識付けと情報提供にも力を入れる。

Ⅱ　学校関係者評価

実施年月日：令和５年２月３日

【意見・要望・評価等】

・アンケート結果で「本校に入学してよかった」と回答する生徒の割合が高い結果が出ていた。教師が日頃より生徒一人一人と向き合い、専門的な知識や技術の習得など熱心に指導している成果である。

・ビジネス科の卒業時のアンケートに、「専門的知識や技術が身に付いた」「専門的教科に関する資格が取得できた」と答えた生徒が多い。これまでの指導がこのような結果につながった。

・３学科合同企画は、本校の強みになり得るものである。学科ごとで学びを深めていくだけではなく、他学科との交流学習のような取組を発展させるとよい。３学科合同発表会では「防災」をテーマに地震災害を中心にしたが、テーマ設定についても、生徒自ら見つけ出すなどさらに工夫した学習過程を検討する必要がある。

・地域の中で岐阜各務野高校の名前を目したり、聞いたりすることも増えており、地域に根ざしてきていることがわかる。これからも地域との連携に取組み、地域の方から評価される学校をめざすとよい。

【情報科】

3　評価する領域・分野	◇情報科（学習指導・地域連携）
4　現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・卒業時におけるアンケートで本校に入学して良かったと回答する生徒が69.3％(R2)→84.6％(R3)→89.4％(R4)と年々向上しており、情報科で学ぶことができる喜びを感じている生徒が増えている。主な理由は専門的な知識や技術を学べた事(65.8%)や、多くの友達が得られた(50.0％)であった。これはカリキュラムを大幅に改変した効果と先進的な学科の取り組み及び教員が生徒に寄り添う指導を高めることができた結果及び仲間づくりを大切にする学科として指導してきた結果であると分析する。次年度以降も継続して指導を実施していきたい。
5　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇地域連携による課題解決型学習を題材として、生徒の専門性と学習意欲を高める指導 ◇情報科全学年で学ぶAI学習（ソフトバンク株式会社と連携） ◇２年生からの専門選択科目における学習指導の充実 ◇資格指導（CGクリエイター検定ベーシック、ITパスポート） ◇学習指導とつながる進学指導（４年制大学への進学指導）
6　重点目標を達成するための校内における組織体制	・地域と連携した授業連携機構 ・定期的な学科職員会議及びコラボレーションプラットフォーム（Microsoft Teamsなど）を活用した学科職員のオンライン連携機構

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
（１）地域と連携した課題解決授業の実施 （２）生徒の学習意欲向上を目指した実習内容の改変と精選 （３）資格指導の充実 （４）個に応じた進路相談及び進路指導の充実 （５）各種コンクールやコンテストへの応募	（１）生徒アンケート及び作品成果物評価 （２）資格取得状況と生徒たちの意識調査及び進学指導での利用率より判断する。 （３）進学状況結果より判断する。 （４）作品成果物に対するコンクールやコンテスト結果より判断する。

9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
【問題解決型連携学習】 ・調査から問題検討、プレゼンの作成まで考える工程を実践的に学習することができた。 【実習内容の大幅な改変】 ・生徒のプログラミング意欲向上、メディア作品制作の実践的な授業を実施した。 【資格指導】 ・ITパスポートの重点指導を実施 【個に応じた進路指導】 ・個別の進路相談から学科職員で連携した面接指導や作品制作指導を実施することができた。 【授業作品成果物の応募】 ・県内外の多岐にわたるコンテストについて作品制作を行い、応募を行うことができた。	①生徒が興味関心を持って学習に取り組むことができたか ②外部評価及び資格取得状況 ③学習内容と連携した生徒の目指す進路希望及び進学実績状況 ④外部における作品成果物における評価はどうであったか。	(A) B C D A (B) C D A (B) C D (A) B C D

12 成果・課題	総合評価
○問題解決型地域連携学習では、実践的な学習に加え、生徒の興味関心を強く高めることができた。また、新しく導入して３年目となった実習及び教材は生徒からも学ぶ意欲が向上したとの声を多く聞くことができた。 ○BYODで導入しているiPadを効果的に活用することができた。本校の情報科の学びには有意義な物であり、親和性も高い。現在では生徒達にとって欠かすことのできない学習ツールとなっている。また、今年度はクラス増に伴う実習室の整備として情報セキュリティ実習室を整備し、今後の先進的な学びへとつなげる準備ができた。今後は本実習室を活用し、情報を収集し的確にまとめ、それらをプレゼンテーション力として発信していく力を養う指導を実施したい。 ○各種コンクールやコンテストについて 　県外については厚生労働省及び公益社団法人エイズ予防財団における令和４年度「世界エイズデーポスターコンクール」において最優秀賞を受賞し、厚生労働省のホームページを筆頭に県内外における医療機関や公官庁に掲示されることが決定した。IPA「情報モラル・セキュリティコンクール」において、４コマ漫画部門で２名、ポスター部門で１名が優秀賞に選出されている。東海北	A (B) C D

	陸ブロック血液センターが主催する「献血ポスターコンペティション」において岐阜県赤十字血液センター所長賞を受賞した。 　また、県内においては「清流の国ぎふ文化祭2024ポスター制作」について、最優秀賞及び、高校生の部で優秀賞を受賞した。本案件について今後も東京藝術大学学長兼岐阜県美術館館長日比野克彦氏の指導の下、残り２年間も継続的に本校が作品制作を実施する事となっている。 　このように各種コンクールやコンテストでは目覚ましい成果を上げている。引き続き、次年度も生徒のモチベーションを高める学習指導を進めたい。 ▲１年生から進学への意識を高めさせ、継続的に将来の進路を意識させる必要が肝要である。また、学科として組織的に進学指導への取り組みを実施し、情報科としての進学先を確保していきたい。特に今年度の１年生は就職を目指している生徒が複数いるため、情報分野に関する就職先の開拓は喫緊の課題といえる。	

13　来年度に向けての改善方策案

・地域と連携した学習活動の充実を図る。令和５年度岐阜県教育委員会より研究指定とされている地域産業の担い手育成事業と連携しながら、産官学連携を中心とした学びを行い、学校内外での生徒の活躍の場を増やしていきたい。

・情報科の未来を見据えた学習内容の強化（AI・クラウド・メディアデザイン）を継続して実施する。併せて進学指導の強化を図る。

Ⅱ　学校関係者評価

実施年月日：令和５年２月３日

【意見・要望・評価等】

・卒業生のアンケートから、年を追うごとに情報科に入ってよかったという回答が増えている。時代の流れの中で生徒たちが望む学びと、社会に求められる学びが提供できている。

・「世界エイズデーポスターコンクール　最優秀賞」「情報モラル・セキュリティコンクール　４コマ漫画部門優秀賞、ポスター部門優秀賞」など、様々なコンクールで大変優秀な成績を収めている。これまでの情報科の学びを生徒が発揮した成果であり、賞を受賞することは、自己のこれまでの歩みに自信をもたせることにつながるものである。

・地域と絡めた問題解決学習や、生徒自らが考えて解決できるようなテーマをどんどん与えていき、より能動的に学ぶスタイルを生徒たちが身に付けるようになっており。今後も地域と連携した取組を一層充実させていくとよい。

【福祉科】

3　評価する領域・分野	◇福祉科（学習指導・地域連携）
4　現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・卒業時のアンケートで、入学して「良かった」と回答した生徒が多く、その中で「専門的な知識が身に付けられた」と答える生徒が70.6%と多い。また、令和４年度入学生アンケート結果より本学科を選択した理由として、「専門的な知識・技術を身に付けたい」「資格を取得したい」が合わせて82.5%となり、高水準である。 ・このことから、専門的な学びに対して生徒の意識は高い。また、３年間を通して福祉に関して学びを深めることができている。
5　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇各フィールドの専門的な学びの充実（ICTの活用） ◇資格取得（介護福祉士国家試験、保育技術検定）
6　重点目標を達成するための校内における組織体制	・フィールド会議（週１回） ・福祉科会議（月１回）

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
（１）ICTを活用した効果的な学習環境づくり （２）地域と連携した体験的な学習（施設実習） （３）介護福祉士国家試験、保育技術検定等合格に向けた授業及び補習形態の工夫	（１）生徒アンケート及び成果物評価 （２）実習後の生徒アンケート及び各機関の評価 （３）介護福祉士国家試験、保育技術検定1級合格率100%

9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
【学習内容の充実】 ・学習支援システムを活用した授業展開や観点別評価についての検討を行った。	①生徒が意欲的に取り組むことができたか	A (B) C　D
【外部連携】 ・施設実習や高大連携事業を通してフィールドの専門性を高めた。また、実習報告会や保育技術発表会など学習内容を発表した。	②外部評価（事業関係者、地域住民等）	(A) B　C　D
【補習の充実】 ・介護福祉士国家試験対策は１１月末から毎日７限目に実施。保育技術検定対策は通年を通して週に１回及び三者懇談中の午後に実施した。	③補習や行事の運営	A (B) C　D

12 成果・課題	○介護福祉士国家試験や保育技術検定では全員合格とはならなかった。しかし、継続した学習活動を通して、生徒たちには最後までやり遂げる力を育成することができた。 ○校内における学習だけでなく、外部で学習した成果を発表する機会を設けることで学びの目的を意識づけすることができた。 ○ボランティア活動において、主体的に参加する生徒も多くいた。 （キッズジョブパーク、ワールドカフェ、中央図書館読み聞かせ） ○学習支援システム（MetaMoJi、manabaなど）を使った教材を開発することで視覚的・効果的な学習方法に繋げることができた。 ▲一年生から指導と評価の一体化が始まったが、より良い学習活動や評価に繋げていくための検討を今後も引き続き行っていきたい。 ▲悩みをもった生徒に対して、学校の教員間の連携だけでなく、SCによる教育相談など共通理解をもって支援できる体制づくりを行う。 ▲地域福祉における課題は年々変化している中で、変化に対応し、貢献することができる福祉人材を育成していく必要がある。	総　合　評　価 A (B) C　D

13　来年度に向けての改善方策案

・授業評価について実践を共有し、生徒の実態に合わせた指導と評価に取り組む。

・介護総合演習や課題研究を通して、体験的な学習活動だけでなく、探究的な学習活動の充実を図れるようにする。

・分掌や学年団との連携を密にし、早期発見・早期対応に努める。
・地域共生社会や地域福祉を推進する社会資源の一つとして今後も地域連携を充実させていく。そのための教育課程の検討を実施していく。

Ⅱ　学校関係者評価

実施年月日：令和５年２月３日

【意見・要望・評価等】
・学習内容の充実のため、タブレトット端末を活用し、生徒が意欲的に取組む姿も多く見られた。今後もタブレットを活用した授業づくりをさらに進めていくとよい。
・将来地元で活躍する人材育成をめざし、そのためにも在学中は地域の方や場所など多く触れ合える体験をしていくとよい。
・３学科合同企画では、防災クイズや特別養護老人ホームの防災対策・福祉避難所についての調査、防災にかかわる大型紙芝居など、福祉科の特色を活かした発表を見ることができた。来年度は、さらに学科の連携を高め、他学科から学ぶ機会を充実させ、課題研究等に反映させるとよい。